

平成 22 年度卒業予定者アンケート

理学部では、平成 23 年 1 月から 2 月末にわたり平成 22 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。

「Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 22 年度理学部コース長が担当した。また、「Ⅱ. 集計結果 (pp. 18-37)」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

数学コース

平成 24 年度卒業予定者アンケートと併せて分析を公表する予定。

物理科学コース

物理科学コース卒業予定者 24 名中 16 名から回答を得た。今年度の回答パーセントは複数回答のものを除き、有効回答数における百分率で示した。また、各質問事項には、昨年度（平成 21 年度）の物質基礎科学コース卒業生による結果との比較も含めた。新しい物理科学コースはおおむね旧物質基礎科学コースを引き継いでいる。

【全般的な質問】

“大学での勉学や生活において満足できたかどうか（複数回答可）”という質問に対して、満足できたものとして、昨年度同様、「友人との出会い」（75%）（昨年度 81%）という回答が最も多かった。昨年度は次いで「研究室での卒研やゼミ」（昨年度 69%）であったが、今回は「研究室での卒研やゼミ」「先生との出会い」「親からの自立」がともに 38%で並んでいる。「授業」「課外活動」も 31%であり、友人との出会い以外は抜きでたものはないが、全般的に学生生活を楽しむことができたものと考えられる。特に「授業」（31 %）は絶対値は小さいが他コースに比べても高い数値であり、授業改善の努力が反映されているものと思われるものの、昨年度に比べて下がっているので一層の努力を必要とする。

他方、“不満足（複数回答可）”として挙げられたものも相変わらず「授業」（50%）（昨年度 50%）であり、「研究室での卒研やゼミ」も 19%であるのが改善の課題であろう。この結果は授業の理解度の二極化によるものと推定される。

“教育環境施設が十分であったか”との質問には、昨年度同様（昨年度 71%）、概ね満足している（87%）学生が多い。10%余りが不満足のようなようであるが、どのような点が不満足であったかを自由に記述して貰うと今後の改善の指針になるであろう。

“高知大学の就職支援活動”に対しては概ね満足が 60%（昨年度 38%）と上昇したが、昨年度は明確な理由はわからなかったのではあるが満足度が落ち込んでいたので、この数値が十分かどうかは不明である。

“ボランティア活動”は、75%の学生は参加していないが、他コースとほぼ同様の傾向である。ボランティア活動に参加した学生は概ね満足している（100%）。

【転学部、転学科および転コース】

昨年度までのコース分属が無くなり、自由にコースを選択できるようになったこともあるので、進路変更として転コース等の利用が考えられるが、物理科学コースでは回答者中 1 名も申請はなかった。物理科学コースに満足して貰えたなら良いことであるが、もともと物理科学コースを選択した学生が少ないので、いわば「少数精鋭」になっているのかも知

れない。物理科学コースは転コース学生を受け入れられるので、他コースからもっと転コースがあって流動性があることも望ましい形態であろう。

【受講科目の感想】

「満足できた科目数」が 30 個以下の割合 (81%) (昨年度 77%) はほぼ横ばいである。授業の“満足した理由 (複数回答可)” で「親切で丁寧な授業であった」 (81%) (昨年度 88%)、「教員の熱意が感じられた」 (56%) (昨年度 59%) の 2 つは過半数を超えて満足された点である。個別的には教員の努力が伝わって満足した授業になっていることがはっきりしてきた。また昨年度低かった「専門分野の実力がついた」 (昨年度 12%) は今年度 44% と改善されてきている。昨年度『「教員の熱意」を、学生の「専門分野の実力をつける」ことにつなげることが課題』としたが、一定程度改善されたものと考えられる。ただ、学問の性格上、「授業内容が斬新だった (13%)」「教材を工夫していた (19%)」となっており、まだまだ課題は多い。

逆に満足できなかった授業が 30 個以上の割合が 13% (昨年度 6%) あり、“理由 (複数回答可)” としては「不親切でわかり難い授業であった」の割合 (56%) (昨年度 59%) が一番大きい。今後も各教員の不断の努力が求められるが、自由記述で「時間が足りない」ともあり、教えるべき内容量とカリキュラムの関係など、常に見直しを図らねばならないと考えられる。

【標準履修モデル】

「基礎科目は授業内容や難易度について (概ね) 適切に配置されていた」という肯定的な意見は 100 % (昨年度 100%) になっており、専門科目に対しても 93 % (昨年度 93 %) は肯定的であった。コースのカリキュラムは受講生にとって満足されているものと思われる。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致しているという意見でも 85% (昨年度 82%) が肯定的な意見を持っており、概ね良好である。

【専門科目への要望】

40% の学生 (昨年度 59%) が“より高度な授業”を要求している一方で、“もう少し授業のレベルを下げて欲しい”という学生も 5 割弱 (53%) (昨年度 47%) おり、授業レベルの按配は難しい課題である。物理分野の特徴として基礎を積み上げていかないと高度な題材を扱うことが出来ないという面があり、学生の意見が二極化するのかもしれない。これは【全般的な質問】中の“大学での勉学や生活において満足できたかどうか”という問いに対して「授業」「研究室での卒研やゼミ」で満足・不満足が 2 極化している傾向と一致していると考えられる。“実験実習や野外調査の時間を増やして欲しい”かどうかについては 6 割がそう思い、4 割はそう思わず、この数値だけでは判断できない。“社会に出て役立つことを授業に増やして欲しい”という要望も、47% (昨年度 53%) はそう思い、53% はそう思わず拮抗している。“社会に出て役立つこと”とは、就職活動に関わることと捉える傾向にあるようで、具体的にはマナーやコミュニケーション能力、社会に出て必要とされる (企業が必要とする) 知識などが挙げられている。

【成績評価】

成績評価は「概ね適切」 (93%) (昨年度 62%) と考えているようで、上がり下がりはあるが、概ね適切と考えられている。

【授業改革】

授業科目数と内容は「概ね適切である」 (73%) (昨年度 94%) であり、「足りない」 (27%) と考えている学生が増加した。これは、物質基礎科学コース時代には無かった現象であり、学科改組で物理科学コースは「少数精鋭」となったためかも知れない。今後の経過を注視する必要がある。足りない理由としては「集中講義」が挙げられている。以前のように、

他大学から講師を呼ぶこともやはり学生教育のアクセントになるものと考えられる。

【アドバイザー教員制度】

「(概ね) 適切であった」との回答が 94%(昨年度 88%)であり満足できる数値であるが、1 名「適切でなかった(6%)」と答えた学生がおり、気に掛かる。適切でなかった具体的なことが意見として出されていないので改善の方向性についての判断ができかねる。

【自由意見】

“理学部の教育や高知大学の教育全般について”の自由意見では、理学部は選択必修、他コース開設科目の要卒単位など履修が複雑なので、その分詳しい説明、あるいは教務へ行くことを明確にしておいた方が良いというものがあった。履修方法についてやや複雑であると捉えられているのであれば、詳しい説明か、わからなくなったら学務委員または教務課に相談することを徹底しなければならないと考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

改組前のアンケートの経年分析で、総合的に学生の満足度が増加してきていたことが示されていた。平成 22 年度の卒業生は学部改組した後の「物理科学コース」の学生であり、不本意でコースに分属したものは居ないことが従前と大きく異なる点である。しかしながら、「授業」に対する満足度が低いのは続いている問題点である。現状は「親切・丁寧な授業と教員の熱意」でカバーしている感があるが、従来に比べて「専門分野の実力」に繋がって行き始めたようであることが回答数から窺える。高度な内容の授業を要求する学生とレベルを下げて欲しい学生とが拮抗しているのは従前と変わらないが、授業数を増やして欲しいという意見が出始めており、改組後の不本意分属のいない状況での学生の授業への取り組みについて、特に専門分野の実力に繋がっているか、授業のレベルや数はどうかといったカリキュラム面の改良に繋げるため、今後の経年変化を見た上での分析を待ちたい。社会に出てから役立つという事柄は就職活動の観点から捉えているようである。「研究室での卒研やゼミ」を一層充実させて学生との直接のやりとりをする中で、礼儀、コミュニケーションをも学べるようなことも従来通り必要であろう。しかし、やはり満足度の高い授業での経験が大きいのではないかと考える。学生が「物理科学」を真に楽しめるよう、我々が努力を引き続き行っていくことが、これまで同様欠かせない。

化学コース

卒業予定者 11 名のうち 9 名から回答を得た。回答率は 82%である。

【全般的な質問】

昨年度の物質変換科学コースとの比較を行うが、母数が少ないために、一概に比較できない部分もあると思われるので、今後数年間の結果を注視していくことが必要と考えられる。

高知大学での勉学や生活で満足できたものとして、「研究室での卒研やゼミ」(78%)、「友人との出会い」(67%)、「先生との出会い」(56%)、が 1 位～3 位を占め、昨年物質変換科学コースと比べると、「友人との出会い」が大きく減少している。一方、満足できなかったものとして「授業」を挙げる学生は 22%と、昨年物質変換科学コース(50%)に比べると大きく減少している。新しいコースでの教育が学生のニーズにマッチしているものと考えられる。

教育施設(学習環境)については、「満足できた」および「ほぼ満足できた」が 78%、「あまり満足ができなかった」および「満足ができなかった」が 22%と、前年の 94%、6%に比べると評価が大きく下がった。応用化学コースとあわせた人数の増加に伴う実験室の狭

隘化などによるものと考えられる。就職支援活動に対しては、「満足できた」と「ほぼ満足できた」と答えた学生が 22%であり、昨年の物質変換科学コースの 57%から大きく減少した。不況の中厳しい就職活動を反映した結果と思われる。ボランティア活動に参加した学生は若干増えている (33%)。

【受講科目の感想】

在学中に受講した理学部開講科目のうちで、満足できた授業の数は「30・40」(44%)、「20・30」(11%)、「10・20」(22%)、「10 以下」(22%)となっている。満足できた授業数の増加がみられる一方で、満足できた授業数が 10 以下 (22%) とする学生が増加していることが気になる。満足した理由として、「親切で丁寧な授業であった」(56%)、「教員の熱意が感じられた」(44%)、「専門分野の実力がついた」(33%)、「授業が一方向的でなかった」(33%) などとなっている。一方、満足できなかった授業の数は、「10 以下」が 44%と、これまでになく高くなっており、新しいコースでの教育が有効に機能していることが伺える。満足しなかった理由として、「不親切でわかり難い授業だった」(89%)、「教員の熱意が感じられなかった」(33%)、「一方向的押し付け授業だった」(44%) などとなっており、さらなる改善が求められる。

【標準履修モデル】

基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたかについては、78%が「配置されていた」、または「概ね配置されていた」と回答している。専門科目については、「概ね配置されていた」が 100%を占めている。昨年までの物質変換科学コースとほぼ同じ割合であるが、専門科目に対する満足度が上昇している。コースの教育目標と標準履修モデルが合致しているという意見でも 78%が肯定的であることから、概ね良好と考えられる。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」との要望に対する意見として、「あまりそう思わない」(78%)、「概ねその通りである」(22%)、「全くその通りである」(0%) となっている。さらに「実験実習の時間を増やして欲しい」との要望に対しては、「あまりそう思わない」が 78%であった。これまで以上に否定的な意見が多くなっており、このことは、授業に対する満足度の現れであると考えられる一方で、学生の学習意欲の低下とも見ることができるのではないだろうか。

「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げて欲しい」という要望に対する意見として、89%が「余りそう思わない」と回答していること、「社会に出て役に立つことを授業に盛り込んで欲しい」という要望に対しても、67%が「余りそう思わない」と回答していることもそれらを裏付けていると考えられる。

【成績評価】

成績評価の方法は適切であったかに対しては、「適切であった」と「概ね適切であった」と答えた学生が 78%と、昨年の物質変換科学コース、今年の実用化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目と内容については、「適切である」と「概ね適切である」をあわせて 89%、「足らない」が 11%で、昨年の物質変換科学コース、今年の実用化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切であったかの問いに対しては、「適切であった」と「概ね適切であった」をあわせて 89%、「適切ではなかった」が 11%で、昨年の物質変換

科学コース同じ、今年の実用化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【自由意見】

融通が利かないとあるが、具体的な内容は不明である。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

昨年までの物質変換科学コースの結果と概ね同様と見ることができ、実用化学コースとあわせた人数の大幅な増加に伴う実験室・研究室の狭隘化などによる教育施設（学習環境）への不満の解消が新たな課題であると考えられる。

昨年の物質変換科学コースに比べて授業への満足度も上昇し、教員の自助努力とともに、新しいコースカリキュラムでの教育が有効に機能していることが伺える。これまでに比べて、授業数や実験・実習の時間数を妥当とする意見が多くなったことは望ましいが、今後はより高度な授業を求める積極的な学生を増やす努力も必要となるであろう。

生物科学コース

本コース卒業予定者 51 名中 27 名から回答を得た。回収率は 53%であり、昨年の 39%に比べやや高いが、一昨年の 74%よりも低い。本年度は回収率を上げる必要がある。

【全般的な質問】

「研究室での卒研やゼミ」と「友人との出会い」において、それぞれ 85%の学生が満足と回答しており、これは例年と同様の傾向である。良好な学生生活を送っていたことがわかる。例年 50%程度ある授業への満足度は、昨年度（20%）とほぼ同様に 26%と低く、不満足度が 48%と高いことが特徴である。しかし、少ないサンプル数での判断は難しい。理学部開設の授業科目においての満足度は、開講授業数 10-30 との解答が 67%であり、満足できなかった授業数は 20 以下も同程度であった。各自の興味の対象や取り組みによるばらつきを考慮し、満足した理由が「専門の実力がついた」と「教員の熱意が感じられた」の 2 つが高いことから、授業の内容は良好と思われる。標準履修モデルや授業の難易度も適切であり、教育目標とも合致しているとの結果であった。さらに、学生はやや高度な内容を求めていることも例年通りである。教育研究施設については 85%の学生がおおむね満足しており、やはり昨年と同様に改修の効果が感じられる。平成 22 年度は新制度（2 学科制）の卒業生であるが、旧制度（3 学科制）との違いは、とくに感じられない。

【転学部、転学科および転コース】

希望通りの受け入れであった。

【受講科目の感想】

満足した授業の数では 20 から 40 の枠におおむね 7 割の回答が含まれており、肯定的な数字と受け止められる。しかし、10 以下と回答した学生も若干ながら存在する。学生の学力にばらつきがある現状では、すべての学生が満足する講義の実施は困難である。学力が異なる学生に対して、講義のレベルの設定は難しい問題であるが、意欲のある学生はレベルを落とすことは望んでいない。生物コースでは受講者数が 200 名に近い専門科目もあり、人数が多い分、個人的なケアは難しい。満足した理由としては「専門分野の実力がついた」が 65%と最も多く、これは好ましい値である。満足しなかった授業の数は 9 割の学生が 20 以下であり、生物科学の教員は大人数の学生を抱えながらも、よく健闘しているといえる。

【標準履修モデル】

すべて回答者が概ね肯定的にとらえており、とくに欠陥はないと判断される。

【専門科目への要望】

他のコースとほぼ同様で、高度な授業を望む傾向がやや強いが、とくに要望や不満についてコメントはなかった。授業内容は基礎と応用、最新の情報の紹介など、バランスが取れていると思われる。実験や実習、野外調査の時間数を増やすことは、教育面で望まれることである。しかし、現状の教員配置では困難である。また、実習や実習では定員オーバーで抽選漏れの学生が出ているが、直前に受講を取りやめる学生が複数いることは問題である。

【成績評価】

適切と概ね適切が約 6 割であり、成績評価に関してやや不満をもつ学生もいることが予想される。これは昨年までとは異なる点であろう。個人的な経験では、試験の解答やレポートの内容が全く不十分であるのに、不勉強な学生程できたと勘違いすることも多い。今後のアンケートでは、細かな設問をもうける必要があろう。

【授業改革】

授業科目数と内容は概ね肯定的にとらえられている。さらに、生物学に関して多様な授業を受けたいという要望があり、学生の強い興味と学習意欲を満たすためにも、外部の非常勤講師による集中講義の開講数を増やす必要を感じる。

【アドバイザー教員制度】

概ね適切に機能している。現在、1 年生では自動的にアドバイザー教官を割り振っているが、希望コースの教官への早期変更もできればよいと思う。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

多くの学生が所属する本コースでは、強い興味をもち生物学を専門的に深く学びたい学生と広く学んだ知識を社会で役立てたいと考える学生がいる。この両者を満足させるカリキュラム編成はかなり困難であることは、例年書かれている通りである。社会で役立つ技術は、卒業研究への真摯な取り組みを通じて身に付くものであり、講義で得た知識だけで実践を伴わないと身に付かない。したがって、各コースの所属学生数のアンバランスを解消する制度を導入し、以前のように卒業研究を必修とすべきであろう。

本コースの学生の学習意欲は総じて高く、毎年野外での実習を多く望む声がある。しかし、コースの学生数が多すぎるため、教員配置、施設や設備の定員やスペース、安全対策などを考慮すると定員を設けなければならず、希望者をすべて履修させることが出来ない。また、余裕のある 2 年時に履修を希望する学生がいるが、3 年生以上を優先するため、希望通りの計画で野外実習を取ることも難しい。一方では、抽選の結果選ばれた履修者が、直前に履修を取りやめることも多く、何らかの対策が必要である。また、専門の科目でも履修者が 100 名を超える講義も多くなり（200 名前後のものもある）、限られた大教室の数から時間を変更しなければならないこともあった。やはりコースごとの学生数のアンバランスを解消しなければ、これらの問題は解決できない。

教育全般に関する学生の意見で、「ある卒論生が担当する教授の都合で、卒論はできあがっていたのに、卒業することができなくなつたと聞きました…」とあったが、該当学生は大学院への進学も就職も決まらずに今年度は休学しており、「教授の都合で卒業できなかった」ということはないと思われる。

地球科学コース

平成 22 年度卒業予定者 11 名全員にアンケートを依頼し、全ての学生から回答を得た。回収率 100%である。但し、そのうち 2 名は卒業論文は合格したものの、授業科目の単位が

不足したため卒業していないが、実質的な卒業生であるから分析に含めた。そのうち、約半数の 6 名が改組後に入学した学生である。

【全般的な質問】

高知大学での勉学や生活で満足できるものに対する回答として、「研究室での卒研やゼミ」「友人との出会い」「先生との出会い」がそれぞれ 100%, 82%, 64% で選択肢の中の 1 から 3 位を占める。これは、理学部全体の平均的な傾向と同じである。「親からの自立」「課外活動」「授業」が全体で一般に低い傾向があるが、他コースと比べると、授業の満足度がやや高いようである。その他は他コースと類似した傾向である。

過去のデータを参照すると、年ごとの変化が激しいが、「授業」については、過去 4 年間には満足 of 比率は 17～36% に推移しているが、本年度は 50% を超えている。また、「先生との出会い」の項目は、17～53% に対して本年度は 50% を超え、類似のパターンを示している。

一方で、満足できなかったものとして、多くのコースでは「授業」が挙げられているが、地球科学コースではその割合が低く、授業や卒論に対する満足度が高めであるという全問の分析と合致している。「親からの自立」が他コースに比べて高率であり、学生寮での生活が印象に残っているとの回答がある。他コースに比べて、生活資金に不足する苦学生が多いかもしれない。

教育研究施設（学習環境）への満足度についての回答は、「満足できた」と「ほぼ満足できた」との合計が 87% で、他コースと比べて同様の数値であった。以上 2 つの満足度は、学生数が比較的少ないことが影響しているのかも知れない。

就職支援活動についての回答は、他コースと同様、昨年度以前に比べると満足度は低下しており、満足している学生は半分以下である。理学部全体として改善の余地がある。

ボランティア活動については、過半数が「参加したことがある」と回答し、多くは満足している。

【受講科目の感想】

大半の学生は 10-30 科目の授業に満足できた、と回答している。この値は全コースの平均的な位置にある。その理由は 1) 専門分野の実力が付いた、2) 教員の熱意、3) 親切・丁寧の順であり、これは理学科の特徴のようである。反対に満足できない科目の数は 10 以下であり、平均値よりも低いと思われる。ただし、不親切、工夫がない、熱意が無い、という酷評もないわけではない。

【標準履修モデル】

標準履修モデルは基礎科目、専門科目ともに、適切に配置されている、と判断されている。一方で、教育目標と上記モデルが合致しているとは捉えられておらず、カリキュラム編成に工夫が必要であろう。

【専門科目への要望】

難易度に関する質問 17-18 では、「より高度な内容」を求める回答が 6（10 人中）、「もっと容易な内容」を求める声は 3（10 人中）という結果である。9 コースのうち 6 コースで学生が「より高度な内容」を求める（質問 17）一方で、「難しすぎるのでレベルを下げて」と求める学生はそれほど多くないという結果であるが、大半が「授業が簡単すぎる」と受け取っているわけではない。様々な学生が様々な授業をうけるのだからこの解釈は単純ではない。学生の向学心、専門知識の体得、レベルアップの意欲を反映していると考えられる。地球科学コースの場合、現状の授業内容を大きく変更する必要があるわけではなく、学生のニーズを把握しながら対応する必要があるだろう。

当コースは野外調査、実習の時間が多く、ケーススタディ、卒業研究などを特色としているため、アンケートにおいて実験・実習・調査の増加を望む声強いわけではなく、現状で良いと思われる。

地球科学コースで履修する学生は「社会に出て役に立つことを学ぶ」という動機が薄いようである。災害科学コースでその希望が多い以外、全てのコースにおいて、関心が薄い。スキルアップ、就職対策、社会への適応策などを求めているわけではない。理学を専攻する者の特徴であると割り切るのではなく、専門スキルの強化の先に将来の職業を想定する姿勢も重要であろう。

【成績評価】

成績評価が「適切」であったとの回答が 60%であり、他コースの平均値と大差ない。

【授業改革】

授業科目数と内容は適切かとの問いに対して、「適切」が 72%以上であるが、他コースにくらべて、やや小さい値である。科目数の上限の緩和、学期の制限の解消、カリキュラムの調整などを求める声がある。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かどうかを問う質問に対して、全員が適切と回答し、他コースと類似の結果である。

【自由意見】

卒業研究の早期開始、授業科目選択幅の拡大、専門科目の増加、地域性を活かした教育・研究などを求める声があり、参考としたい。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

改組前後で、学生の教育への関心、受けとりかたが大きく変わったという回答結果は認められない。不本意配属という意識を引きずって在籍する学生が殆どなくなった一方で、当コースへの在籍者数は漸減している。反対に、授業や卒論研究において、ゼミなどの学生への対応がきめ細かくできるメリットがあり、授業・研究への満足度が上昇している。個々の学生へ最適な対応ができる方策をさらに講じるべきである。

教員陣からみて、学生の地球科学専門教育に求めるもの、つまり学生の学習動機を詳しく捉え切れていないと思われる。例えば、質問 20 では、専門教育に対して「社会に出て役にたつ」知識を求めている学生は非常に少ない、という結果は意外であった。これが、長期的・グローバルな視点が備わりつつあると前向きに捉えるべきか、個人的な社会性の欠如が学習に反映されていると考えるべきか判断しかねている。

地球科学分野は、本来フィールドワークを通して、実地で理解すべき事柄が多い。また、学生に学習・研究の意欲を湧かせる効果も絶大である。しかし、現在のカリキュラムは、講義と室内での実習を前提としており、フィールドワークの機会が減少していることは、憂慮すべきであり充実に取り組みねばならない。

高知大学の地球科学コースでは、限られた設備、施設、予算のなかで、学生達に最大限、多くの教育の機会をあたえる努力をしている。サイエンスギャラリーの展示、オープンキャンパスでのパフォーマンス、きめ細かい野外調査研究の指導を行っている。アンケート結果を分析した結果、これら教員側の熱意・努力は十分に学生に伝わっているとの確信を得ることができた。少し背伸びをして学会参加、他大学の学生との交流、英語でのコミュニケーションの機会、海外調査や研修、学外の研究者・教員との共同研究への参加、学外講師による集中講義、船舶を用いた海洋地質調査への参加、他機関での分析や観測など、貴重な体験を提供している。今後も、海洋コア総合研究センター、

災害科学コース，他大学，研究機関，各種博物館，地元組織，海洋研究開発機構などとの連携，共同研究を維持しながら，学生教育に活かしていきたい。

情報科学コース

【全般的な質問】

＜満足できたもの＞前年度とほぼ同様の傾向であるが，授業に対する満足度が 50%→35%と減っているのが問題だ．の授業内容・全般的教育方針に大きな変化はないので，理由として考えられるのは入試のやり方ぐらいである．また 先生との出会いは 38%→50% と増加し他コース並になっている．これも理由は不明である．

＜満足できなかったもの＞の第一は親からの自立(0%→30%)である．これは授業慮が相対的高くなっていることによるものと思われる．その他特に変化はない．

＜教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。＞満足できた(20%)満足できる授業が多かった(80%)でまずまずである．前年度(20%+64%)より向上している．

＜高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。＞満足できたと満足できなかったが 1：2 ほどである．これは前年度の 6：4 からが句点しており，問題であるが，これはほぼ就職率を反映していると思われる．また，学生自身の積極性の低下も関係あると思われる．

＜ボランティア活動＞は積極的に進めていないので，参加なし(90%)がほとんどである．参加者は二人であるが，一方はほぼ満足で，もう一方は余り満足ではないようである．積極的進めるようにしてもよいかどうか迷うところである．

【転学部、転学科および転コース】

＜あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。＞で，ある(15%一人)は学生個人の問題と考えられる．

【受講科目の感想】

＜満足できた授業の数＞は開設授業数にもよるので，論評しようがない．

＜満足した理由＞の第一が専門分野の実力が付いた(90%)であるのは良いことであるが，前年度との分布の変化に特段の意味があるとも思われない．今後とも，集中講義等を活用して，最先端の話しが聞ける環境を整備したい．

＜満足しなかった理由＞の第一が，前年度と同様に，不親切でわかり難い授業であるが，学生の現状がよく分かる．

【標準履修モデル】

に関する質問はいずれも A と B をあわせると 100－95%であり，まず問題ないようである．ただ，A が少ないので，最適ではないようである．

【専門科目への要望】

＜より高度な授業内容を実施してほしい＞は A と B をあわせると 75%あり，＜難しい授業が多すぎるので，もう少しレベルを下げてほしい＞は A と B をあわせても 10%しかなく，今後難しい授業を増やすことを考える必要がある．ただし，学生の方の努力も必要であるが．

＜実験実習の時間を増やしてほしい＞は A と B をあわせると 50%で，現状でよいか．

＜社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい＞は A と B をあわせると 30%で，前年

度 (84%)よりかなり減っている。今年度はほぼこの点では満足できたようであるが、具体的な要望事項はそれなりに意味のあるもののようなので、今後改善したい。

【成績評価】

＜成績評価の方法＞は A と B をあわせると 80%あり、特に問題はない。

【授業改革】

＜授業科目数と内容は適切だと思いますか。＞は A と B をあわせると 100%あり、特に問題はない。

【アドバイザー教員制度】

＜指導・支援は適切でしたか。＞は A と B をあわせると 100%あり、特に問題はないが、

【自由意見】

学生の自由意見に「項目 19 について、実験や野外調査等を増やしても、それがただの講義の拡張であっては意味がない。重要なのは、知性の枠組みが象牙の塔より少しはみ出し、興味を喚起することである。学問の範囲内で完結した物のみでは学生も真面目さ以上の学問的興味を持つのは難しい。もちろん、意欲の管理や学習した事の応用、関連づけは学生の仕事であるという意見も正当なものではあるが、大半の若者が大学で学ぶ現状では高望みであろう。むしろ、教員の知識意欲を学生に降ろすことが大学での学び、全体をよくする有効な戦略である。その為に必要なものは、教員が自分の好きなことを好きなように語ることでできる環境である。その様に行われた授業は、たとえ、講義の形をとっていても、学問の外側にある人間の一般的生活感覚を揺さぶる物になることを経験として知っている。資格に関係する授業以外は、もっと自由に行われるものであることを願う。というわけで、シラバスの制約を緩く欲しいと思う。(面白くない授業への出席率の低い不真面目な学生の意見)」とあるが、まったくその通りであると私も思う。かつては、かなり自由な授業ができていたが、最近では、カリキュラム体系が融通の聞かない体制に出来上がり、授業内容も教員も部品化され、あたかも自動車学校の授業コースのようになり、ものによってはまったく面白みのないものになっている場合もあるかに思われる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

情報科学コースでは特に高度な内容の授業を求める希望が多いので、その方向への工夫が必要である。

また、授業内容の自由度を上げ、学生が興味を持っている内容にすべきか。

応用化学コース

卒業予定者 25 名のうち 16 名から回答を得た。回答率は 64%である。

【全般的な質問】

昨年度の物質変換科学コースとの比較を行うが、回収率が低かったために、一概に比較できない部分もあると思われるので、今後数年間の結果を注視していくことが必要と考えられる。

高知大学での勉学や生活で満足できたものとして、「友人との出会い」(81%)、「親からの自立」(50%)、が 1, 2 位を占め、「研究室での卒研やゼミ」(38%)、「先生との出会い」(38%)は多くなく、昨年の物質変換科学コースおよび今年の化学コースの結果とは大きく異なっていた。満足できなかったものとして「授業」(50%)や「研究室での卒研やゼミ」(19%)を挙げる学生が多くなっていることから、学業に関する満足度が充分でないことがわかる。昨年はなかった「友人とのトラブル」(19%)が多いことも気になる。

教育施設(学習環境)については、「満足できた」および「ほぼ満足できた」が 69%、「あ

まり満足ができなかった」および「満足ができなかった」が 31%と、前年の物質変換科学コース（94%，6%），さらには今年の化学コース（78%，22%）に比べて評価が大幅に低い。化学コースとあわせた人数の増加に伴う実験室や研究室の狭隘化などによるものと考えられる。就職支援活動に対しては、「満足できた」と「ほぼ満足できた」と答えた学生が 57%であり、昨年の物質変換科学コースと同じであった。ボランティア活動に参加した学生は非常に少ない（13%）が満足度は高いようである。

【転学部・転学科および転コース】

申請をして受け入れられなかったと回答した学生が 2 名（13%）いることは、昨年の物質変換科学コースおよび今年のお他コースの多くが 0%であったことに比べると多く、不本意配属されていたことになる。1 名は人文学部への希望が受け入れられていないことがわかったが、もう 1 名については不明である。人文学部への転学部は特例であることから、今後の動向を見て来年以降に分析したい。

【受講科目の感想】

在学中に受講した理学部開講科目のうちで、満足できた授業の数は、「20・30」（31%），「10・20」（38%），「10 以下」（19%）と他のコースと同様に非常に少なくなっている。満足した理由として、「専門分野の実力がついた」（38%），「親切で丁寧な授業であった」（38%），「教員の熱意が感じられた」（31%），「授業が一方的でなかった」（25%）などとなっている。「親切で丁寧な授業であった」（38%）が少ないことは気に掛かる。一方、満足できなかった授業の数は、「20・30」（38%），「10・20」（44%）と、昨年の物質変換科学コースよりも多くなっている。これは、化学コースとは全く逆の傾向であり、新しいコースでの教育に関しての教員の考えと学生の意向に差があるものと考えられる。満足しなかった理由として、「不親切でわかり難い授業だった」（81%），「教員の熱意が感じられなかった」（50%）などとなっており、改善が求められる。「実力がつかなかった」（38%）という意見も多く、教員、学生相互の努力と理解が必要である。

【標準履修モデル】

基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたかについては、81%が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。専門科目については、「配置されていた」または「概ね配置されていた」が 63%を占めている。専門科目の評価が、昨年までの物質変換科学コースや今年の化学コースと比べると低く、今後の改善が必要であると考えられる。この先数年のアンケート結果を考慮して、検討していきたい。コースの教育目標と標準履修モデルが合致しているという意見では 75%が肯定的であることから、概ね良好と考えられる。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」との要望に対する意見として、「概ねその通りである」（44%），「あまりそう思わない」（25%），「全くその通りである」（19%）となっており、昨年の物質変換科学コースの結果とくらべても肯定的な意見が多く、新しいコースカリキュラムへの期待の表れであろう。一方、「実験実習の時間を増やして欲しい」との要望に対しては、「余りそう思わない」が 44%で、化学コースと同様に否定的な意見が多くなっており、実験実習よりも講義の充実に対する希望が強いようである。「社会に出て役に立つことを授業に盛り込んで欲しい」という要望に対しても、44%が「余りそう思わない」と回答していることも関連していると考えられる。

【成績評価】

成績評価の方法は適切であったと思うかに対しては、「適切であった」と「概ね適切であ

った」と答えた学生が 75%と、昨年の物質変換科学コース、今年の化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目と内容については、「適切である」と「概ね適切である」をあわせて 81%、「足りない」が 13%で、昨年の物質変換科学コース、今年の化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切であったかの問いに対しては、「適切であった」と「概ね適切であった」をあわせて 88%で、昨年の物質変換科学コース、今年の化学コースとほぼ同じである。特に問題はないように思われる。

【自由意見】

物理化学系の授業が少ないことへの不満や化学の応用に関してより多くを学ぶことへの要求があった。また、同分野の授業では 1 つの教科書をみっちり学習したい希望があった。今後検討していきたい。機器分析の授業内容の偏りに関する意見があり、この点については、すでに関連する科目についてコースとしても検討しており、早速次年度より担当者と内容を変えて充実させることとした。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

昨年までの物質変換科学コースの結果とは若干異なり、教育・研究に対する評価がかなり低いようである。これは、今までには見られなかった傾向で、化学コースとあわせた人数の大幅な増加に伴う教員の負担の増加ならびに実験室・研究室などの教育施設（学習環境）の狭隘化などが主因であると考えられる。

さらに、新しいコースカリキュラムでの教育に関しては、化学コースとは対照的に、まだ十分に機能していない様子が見え、物理化学分野と生物化学分野の履修に関しての再検討や既存の授業における応用的内容の充実を図っていく必要がある。今年度から新たに精密有機合成（高分子化学）を開講した効果についても検証していきたい。

海洋生命・分子工学コース

卒業予定者 16 名のうち 11 名から回答を得た。回収率は 69%である。母数が少ない上に回収率も悪かった。数字から何かを判断するのは難しいと思われるが、そのことを念頭に置いたうえで、以下に分析を試みる。

【全般的な質問】

大学で満足したこととしては、「授業」「研究室での卒研やゼミ」「先生との出会い」「友人との出会い」がほぼ同数で上位となっていた。一方、満足できなかったこととしても「授業」「研究室での卒研やゼミ」「先生とのトラブル」が 3 名ずついた。教育研究施設（学習環境）については 11 人中 10 人が「満足できた」か「ほぼ満足できた」を選んだ。

一方で、就職支援に関しては 11 人中 8 人が「あまり満足できなかった」か「満足できなかった」を選んだ。

【理学部に関する質問】

転学部・転学科・転コースを希望した者は 11 名中 1 名であり、希望は受け入れられたとのことである。満足できた授業の数については「10～20」が 4 名で最も多く「20～30」が 3 名でそれに続いた。この分布は、概ね他コースと同様であった。満足した理由については「専門分野の実力がついた」「親切で丁寧」が多く、この傾向は他のコースとほぼ同様であ

った。強いて他コースとの違いをあげるなら「授業が一方的でなかった」をあげた学生が 11 名中 5 名いたことである。満足できなかった授業の数については「10 未満」と「10～20」が計 7 名と大半を占めた。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」「一方的な押し付け授業だった」という答えが多かった。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 10 名であった。専門科目についても 8 名がポジティブな回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには 9 名がポジティブな回答をした。より高度な授業をしてほしいか（？）授業のレベルを下げてほしいか（？）との質問に関しては、ほぼ五分五分に意見が分かれた。実験実習の時間を増やしてほしいか（？）という質問に対して「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は 11 名中 6 名であった。この比率は昨年度より低く一昨年と同程度であった。社会で役立つ授業については、11 名中 8 名が望んでいないことがわかった。

【成績評価の方法・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、11 名中 7 名が「適切であった」「概ね適切であった」を選んだ。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては 11 名全員が「適切である」「概ね適切である」を選択した。アドバイザー教員の指導・支援については 9 名が「適切であった」「概ね適切であった」と答えた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

この学年は、理学部の組織改革をして最初の学年であった。受験のときは旧制度で学科ごとの入試を行い、入学後に全員が希望通りの主専攻に配属された。本コースは、物質科学科・生体機能物質工学コースだった頃は学科内で最も希望者が多かった。その一方で、物質科学科よりも自然環境科学科の偏差値が高かったことなどを背景として、少なからぬ数の学生が、自然環境科学科・生物科学コースを第一希望としていながら物質科学科・生体機能物質工学コースへ来た。それを裏付けるように、入学後に物質科学科から自然環境科学科への転学科を試みる学生が例年数名はいた。そのためか、新体制の初年度には本コースへの配属希望者が例年の 6 割程度となり、生物科学コースへ配属された学生の 3 分の 1 程度しかいなかった。次の年度から数年間は、一括入試で生物受験での入学者が激増したこともあるのか本コースを主専攻とする学生が約 2 倍に増え、生物科学コースと同程度になった。したがって、平成 22 年度の本コース卒業生は、その前年までの学生たちとも、次年度以降の学生たちとも比較できない特別な学年である。また、新体制となって、アドバンス／ジェネラルのコース選択が可能になったが、平成 22 年度卒業生は、以降のどの学年と比較してもジェネラルコースを選択する学生の比率が高く、その点でも、他の学年と比較して異色である。しかも、冒頭で述べたように、この学年の本コース所属学生は母数が少なすぎる。これらの状況を考えると、個々の質問項目に対する回答の分布を前年度や次年度以降と比較しても、あまり意味のある議論はできそうにない。

災害科学コース

平成 24 年度卒業予定者アンケートと併せて分析を公表する予定。

Ⅱ．集計結果

【所属】

- あなたの所属するコースを下記より選んでください。
 - 数学（数理科学）コース
 - 物理科学（物質基礎科学）コース
 - 化学コース
 - 生物科学コース
 - 地球科学（地球史環境科学）コース
 - 情報科学コース
 - 応用化学コース（物質変換科学）
 - 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
 - 災害科学（防災科学）コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	56	24	11	51	9	22	25	16	28	242
回収件数	35	16	9	27	11	20	16	11	24	169
回収率(%)	63	67	82	53	122	91	64	69	86	70

【全般的な質問】

- 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。（複数回答可）
 - 授業
 - 研究室での卒研やゼミ
 - 先生との出会い
 - 友人との出会い
 - 課外活動
 - 親からの自立
 - その他（ ）

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学（数理科学）コース	26	57	57	74	46	31	6
物理科学(物質基礎科学)コース	31	38	38	75	31	38	0
化学コース	22	78	56	67	33	11	0
生物科学コース	26	85	56	85	44	33	4
地球科学（地球史環境科学）コース	55	82	64	100	45	36	9
情報科学コース	35	65	50	65	25	20	5
応用化学(物質変換科学)コース	13	38	38	81	19	50	0
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	36	55	45	55	27	27	0
災害科学（防災科学）コース	21	75	58	92	42	25	0

G. その他

数学(数理科学)コース

- ・ 教員試験関係
- ・ 部活

物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 立地？

生物科学コース

- ・ 部活

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 南冥寮で生活したこと。

情報科学コース

- ・ アルバイト

災害科学(防災科学)コース

- ・ アクシデント、トラブルが相次いだが、人生とは何であるかを痛感できた。

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生とのトラブル D. 友人とのトラブル
E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ()

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	57	3	3	3	11	20	3
物理科学(物質基礎科学)コース	50	19	6	6	6	13	6
化学コース	22	0	0	0	0	22	44
生物科学コース	48	0	4	0	15	4	0
地球科学(地球史環境科学)コース	18	0	0	0	27	27	9
情報科学コース	25	5	5	5	20	30	5
応用化学(物質変換科学)コース	50	19	0	19	19	6	19
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	27	27	27	0	0	9	0
災害科学(防災科学)コース	38	8	8	0	17	8	8

数学(数理科学)コース

- ・ 将来に向けての準備(勉強)
- ・ 特になし/なし

化学コース

- ・ 特になし

生物科学コース

- ・ なし

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ なし/ありません。
- ・ 留年してしまったこと。

情報科学コース

- ・ リア充(実社会における人間関係や趣味活動を楽しんでいること。)

応用化学コース

- ・ 特になし
- ・ アルバイト

災害科学(防災科学)コース

- ・ サークル活動に対して、学校の制約があるくせに、学校が少しもチェックしていない。(現場に行ったりなど)
- ・ なし

4. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	29	60	9	3
物理科学(物質基礎科学)コース	25	56	6	6
化学コース	11	67	11	11
生物科学コース	26	59	15	0
地球科学（地球史環境科学）コース	18	82	0	0
情報科学コース	20	80	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	13	56	19	13
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	27	64	9	0
災害科学（防災科学）コース	38	54	4	4

ご意見があればお書きください。

数学(数理科学)コース

- ・ 将来に向けての準備(勉強)

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	23	43	26	9
物理科学コース（物質基礎科学）	13	44	25	13

化学コース	11	11	22	33
生物科学コース	19	37	33	7
地球科学（地球史環境科学）コース	0	27	45	9
情報科学コース	0	45	45	10
応用化学(物質変換科学)コース	6	50	19	13
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	0	27	55	18
災害科学（防災科学）コース	17	25	33	25

ご意見があればお書きください。

物理科学(物質基礎化学)コース

・利用していない。

地球科学(地球史環境科学)コース

・ 利用しなかった。

応用化学コース（物質変換科学）

・ していない、院進学。

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある B. ない

(%)

	A. ある	B. ない
数学（数理科学）コース	37	63
物理科学(物質基礎科学)コース	25	75
化学コース	33	67
生物科学コース	30	70
地球科学（地球史環境科学）コース	27	73
情報科学コース	10	90
応用化学(物質変換科学)コース	13	88
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9	91
災害科学（防災科学）コース	21	79

7. 「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	62	31	8	8
物理科学（物質基礎科学）コース	50	50	0	0
化学コース	67	0	33	0
生物科学コース	63	38	0	0
地球科学（地球史環境科学）コース	33	67	0	0
情報科学コース	0	50	50	0
応用化学（物質変換科学）コース	50	50	0	0
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	100	0	0	0
災害科学（防災科学）コース	40	60	0	0

続いて理学部に関する質問です。

【転学部、転学科および転コース】

8. あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

A. はい B. いいえ

(%)

	A. はい	B. いいえ
数学（数理科学）コース	0	97
物理科学（物質基礎科学）コース	0	100
化学コース	11	89
生物科学コース	11	89
地球科学（地球史環境科学）コース	9	91
情報科学コース	15	80
応用化学（物質変換科学）コース	19	81
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9	91
災害科学（防災科学）コース	0	96

9. あると答えた方の方に質問します。申請は受け入れられましたか。

A. はい B. いいえ

(%)

	A. ある	B. ない
数学（数理科学）コース	－	－
物理科学（物質基礎科学）コース	－	－
化学コース	100	0
生物科学コース	100	0
地球科学（地球史環境科学）コース	100	0
情報科学コース	100	0
応用化学（物質変換科学）コース	33	67
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	100	0
災害科学（防災科学）コース	－	－

【受講科目の感想】

10. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30－40 C. 20－30 D. 10－20 E. 10 以下

(%)

	A. 40 以上	B. 30－40	C. 20－30	D. 10－20	E. 10 以下
数学（数理科学）コース	23	11	34	14	17
物理科学（物質基礎科学）コース	6	13	25	31	25
化学コース	0	44	11	22	22
生物科学コース	4	11	30	37	19
地球科学（地球史環境科学）コース	0	0	45	45	9
情報科学コース	10	5	30	40	10
応用化学（物質変換科学）コース	6	6	31	38	19
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9	18	27	36	9
災害科学（防災科学）コース	25	21	17	13	25

11. 満足した理由を下記より選んでください。（複数回答可）

A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他（具体的に書いてください）

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学（数理科学）コース	63	60	9	46	20	14	6
物理科学（物質基礎科学）コース	44	81	19	56	25	13	0
化学コース	33	56	22	44	33	11	0
生物科学コース	59	33	19	56	19	19	7
地球科学（地球史環境科学）コース	82	55	18	73	36	36	0
情報科学コース	90	45	35	25	15	0	5
応用化学（物質変換科学）コース	38	38	6	31	25	19	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	55	64	27	36	45	0	0
災害科学（防災科学）コース	54	67	33	33	8	17	4

数学（数理科学）コース

- ・ 企業の方や先生のお話がおもしろく、価値観が変わった。
- ・ 教員の教えたい事が多少伝わった。

生物科学コース

- ・ 質問の対応がよかったから。
- ・ 授業のテーマに興味があったから。

情報科学コース

- ・ 専門分野の興味と方向性が分かった。

応用化学コース（物質変換科学）

- ・ 内容に興味を持てた。

12. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30－40 C. 20－30 D. 10－20 E. 10 以下

(%)

	A. 40 以上	B. 30－40	C. 20－30	D. 10－20	E. 10 以下
数学（数理科学）コース	14	0	14	20	51
物理科学（物質基礎科学）コース	0	13	6	56	25
化学コース	11	11	22	11	44
生物科学コース	4	7	22	26	41
地球科学（地球史環境科学）コース	9	0	18	27	45
情報科学コース	0	0	0	25	75
応用化学（物質変換科学）コース	6	0	38	44	13

海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	18	9	9	27	36
災害科学（防災科学）コース	4	0	13	17	67

生物科学コース

- ・ なし

13. 満足しなかった理由を下記より選んでください。（複数回答可）

- (ア)実力がつかなかった B. 不親切でわかり難い授業だった
 C. 教材の工夫が見られなかった D. 教員の熱意が感じられなかった
 E. 一方的な押し付け授業だった F. 内容が古すぎた
 G. 内容は新しいが断片的だった H. その他（具体的に書いてください）

(%)

	A	B	C	D	E	F	G	H
数学（数理科学）コース	37	49	9	26	34	3	14	9
物理科学（物質基礎科学）コース	38	56	19	25	38	0	19	0
化学コース	11	89	22	33	44	0	11	0
生物科学コース	44	52	37	22	33	4	7	0
地球科学（地球史環境科学）コース	27	64	36	36	18	9	36	0
情報科学コース	25	45	25	20	25	10	20	15
応用化学（物質変換科学）コース	38	81	19	50	25	6	13	0
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	27	55	27	36	45	0	9	9
災害科学（防災科学）コース	17	54	17	13	2	0	13	0

数学（数理科学）コース

- ・ 興味がわかなかった。
- ・ あまり興味の持てる内容ではなかった。
- ・ 内容が易し過ぎた。

物理科学（物質基礎化学）コース

- ・ 時間が足りない。

生物科学コース

- ・ なし

情報科学コース

- ・ 分かりづらかった。
- ・ 前提となる知識を得られる講義が受けられなかった or 同時期に開講されていた為。
- ・ 社会人との出会いや大学の授業が少ない、そういう授業を増やしてもらってもっと楽しいと思う。

- ・ 本を読めば分かる授業で、しかも本を読んでみようという興味も生じない。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 教員のあからさまなパワハラがあった。(えこひいき?)

災害科学(防災科学)コース

- ・ なし

【標準履修モデル】

14. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	31	60	9	0
物理科学(物質基礎科学)コース	25	69	0	0
化学コース	11	67	22	0
生物科学コース	22	74	0	0
地球科学(地球史環境科学)コース	45	45	9	0
情報科学コース	5	95	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	25	56	13	6
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	27	64	0	9
災害科学(防災科学)コース	25	67	8	0

15. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	29	66	6	0
物理科学(物質基礎科学)コース	25	63	6	0
化学コース	0	100	0	0
生物科学コース	26	67	7	0
地球科学(地球史環境科学)コース	18	73	0	9
情報科学コース	15	80	5	0
応用化学(物質変換科学)	25	38	31	6

コース				
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	18	55	18	9
災害科学（防災科学）コース	33	58	4	4

16. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. 余り合致していなかった D. 合致していなかった

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	29	51	17	3
物理科学(物質基礎科学)コース	19	50	13	0
化学コース	0	78	22	0
生物科学コース	11	74	11	0
地球科学（地球史環境科学）コース	0	73	27	0
情報科学コース	5	95	0	0
応用化学(物質変換科学)コース	0	75	19	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9	73	9	9
災害科学（防災科学）コース	29	71	0	0

物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 知らん。今、参照できるわけ無かろうが
- ・ すみません、分かりません。

【専門科目への要望】

17. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	14	31	51	3
物理科学(物質基礎科学)コース	13	25	50	6
化学コース	0	22	78	0

生物科学コース	7	56	37	0
地球科学（地球史環境科学）コース	9	45	27	9
情報科学コース	5	70	25	0
応用化学(物質変換科学)コース	19	44	25	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9	45	45	0
災害科学（防災科学）コース	17	67	17	0

地球科学(地球史環境科学コース)

- ・ 一概に言えない。国立大だから個々に応じた授業を生かす必要がある。

18. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	9	17	46	29
物理科学(物質基礎科学)コース	13	38	31	13
化学コース	0	11	89	0
生物科学コース	0	26	67	7
地球科学（地球史環境科学）コース	0	27	36	27
情報科学コース	0	10	80	10
応用化学(物質変換科学)コース	0	31	56	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	0	27	64	9
災害科学（防災科学）コース	4	54	38	4

地球科学(地球史環境科学コース)

- ・ 一概に言えない。国立大だから、学力差があることは当然だからこそ、個々に応じた授業を生かす必要がある。

19. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである

C. 余りそう思わない

D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	9	11	40	37
物理科学（物質基礎科学）コース	19	38	19	19
化学コース	22	0	78	0
生物科学コース	44	33	22	0
地球科学（地球史環境科学）コース	18	36	36	9
情報科学コース	15	35	50	0
応用化学（物質変換科学）コース	19	25	44	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	18	36	36	9
災害科学（防災科学）コース	29	50	13	8

20. 「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

A. 全くそのとおりである

B. 概ねそのとおりである

C. 余りそう思わない

D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	20	17	46	17
物理科学（物質基礎科学）コース	13	31	44	6
化学コース	11	22	67	0
生物科学コース	15	22	56	7
地球科学（地球史環境科学）コース	9	9	64	18
情報科学コース	15	15	70	0
応用化学（物質変換科学）コース	25	25	44	0
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	18	9	36	36
災害科学（防災科学）コース	33	29	38	0

21. A あるいは B を選択した人にお聞きます。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

数学(数理科学)コース

- ・ 例えば、私は高校教員(数学)を目指すのですが、将来、高校生に数学を教えるのに役立つ大学数学をもっと授業に盛り込んでほしい。
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 教職関係
- ・ 高校数学と大学数学の比較
- ・ 社会人としてのマナー、社会のしくみ
- ・ 学んだことを実生活に生かす実践力とアイデア
- ・ 社会に関係した数学の授業があればおもしろいと思う。
- ・ 専門科目の授業に関しては仕方ない部分もあるが、一般教養は日本の政治について話し合う授業や日本の財政について話し合う授業がもっとあってもよいと思った。また、教職の授業も一般教養でたくさん取り入れて欲しいと思います。
- ・ 教員なら専門の講義など
- ・ 教職科目について、「現場ではこういった問題がある」と言った例示はされるが、それに対して解決策や案の話がない。
- ・ 例えば、情報等の授業で、より多くの実用的なものを学びたいです。
- ・ 自ら目標を立て、その達成に向かい進んで行く力。

物理科学(物質基礎化学)コース

- ・ 社会に出て必要とされる知識(企業が必要とされるような)についての勉強。
- ・ 社会に役立つというよりも、昨今の就職活動の早期化に手を打っていただきたい。
- ・ 地域と人とコミュニケーションをとるようなこと。
- ・ 社会人としてではなく、人としてのマナーや、高知県の特徴であるお酒のマナーを取り入れるのも面白いのではないかと思います。
- ・ コミュニケーション能力

化学コース

- ・ 分からない。
- ・ 資格等をとることができる。
- ・ コミュニケーション能力の向上

生物科学コース

- ・ 普段の生活において、どの程度関係があることなのかなど。
- ・ 大学で学んだ授業の内容を生かせる仕事が少なすぎる。
- ・ 自分の分野で、どのような仕事があるかなどを知ること。
- ・ ベンチャービジネス論みたいな・・・
- ・ 実際に社会でつかわれていることなどを学んだり、体験したりしたかった。
- ・ 討論
- ・ エクセル、パワーポイントなどの PC に関することをより...
- ・ 現在の社会問題、環境問題にどのように関連するのか？
- ・ PC の講義で、マナーなどをさらに学ぶ。
- ・ 仕事上のマナーなど
- ・ コミュニケーション能力、人前で話す力など。

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 就職してから必要となる技術。
- ・ 発表時における物事の構成の仕方など、考える訓練というようなもの。

情報科学コース

- ・ 例えば、1つのレポートについて一度提出して終わりではなく、何度か改善、チェックを繰り返すことが必要だと思います。
- ・ 社会人との出会いや大学の授業が少ない。そういう授業を増やしてもらえると、もっと楽しいと思う。
- ・ 専門分野を社会でどのように使うかを見せてほしい。
- ・ 現状で使用されているプログラム等の授業があったらいいのではないと思う。
- ・ 座学じゃなくて、実験実習的な授業やプレゼン力が上がるなにかとか。
- ・ 実際、社会で行われている「働く」ということについて、どのようなことが展開されているのかを知りたい。

応用化学コース（物質変換科学）

- ・ 資格取得にリンクした授業。例えば、現行の実験安全教育(危険物取扱者試験)等。
- ・ 教育実習対策。
- ・ 会社や研究所などで使われている理論、技術の説明が修得。
- ・ プレゼンテーションなどの能力/プレゼンテーションの能力。
- ・ 応用化学という名前であるが、物理系の必修科目が少ないだけで、化学コースとの違いが感じられない。「応用」という点に重点をあてた授業が少なく、「基礎」の理念を学んだ感じがした。化学が応用されている事例なども知りたかった。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 自ら勉強すること、どんなことに対しても疑問を持つことを授業の中で身につけるように指示する授業を行ってもらいたい。
- ・ 社会人のマナー等

災害科学(防災科学)コース

- ・ 企業で役立つ情報処理技術、一般英語 etc..
- ・ ビジネスマナー
- ・ パソコンのスキルや英会話、英語
- ・ 机上の学習では実践力は身につかないと思うから。
- ・ 政治知識、外交関係
- ・ 社会に出ても、すぐに社会人として行動できるような授業。
- ・ 実生活に関する授業(お金のことなど)
- ・ 行きたい分野にあった内容
- ・ 若い学生を高齢化の進む地区で貢献させること？

【成績評価】

22. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

(%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	46	46	6	0
物理科学(物質基礎科学)コース	0	81	6	0
化学コース	11	67	11	11
生物科学コース	22	41	37	0

地球科学（地球史環境科学）コース	18	36	36	0
情報科学コース	20	60	15	0
応用化学（物質変換科学）コース	13	63	25	0
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	27	36	27	9
災害科学（防災科学）コース	33	63	0	4

地球科学（地球史環境科学）コース

- ・ 質問に答えられない。評価方法が不明確であるから。

【授業改革】

23. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

(%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	31	57	9	3
物理科学（物質基礎科学）コース	13	56	25	0
化学コース	11	78	11	0
生物科学コース	26	70	4	0
地球科学（地球史環境科学）コース	18	55	27	0
情報科学コース	5	95	0	0
応用化学（物質変換科学）コース	13	69	13	6
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	27	73	0	0
災害科学（防災科学）コース	29	67	0	4

24. C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

数学（数理科学）コース

- ・ 集中講義を行ってもらっている特論のような、専門性の高い授業を増やしてもらいたいです。(集中講義)
- ・ 高校までの詰め込み式のような解析系の授業ではなく、もっと自由な数学を生かした授業(ゲーム理論や

真の意味で考える問題)を増やして欲しい。

- ・ 自分も含め、学生はあまり勉強しないので、演習などを増やした方がよいと思う。
- ・ 3年次の専門科目にも演習が欲しい。(数学)

物理科学(物質基礎化学)コース

- ・ プライマリー、ジェネラル、アドバンスという分け方だと実質的な必修が多くなるため、ここをもっと柔軟にしていたきたい。
- ・ 開講されない集中講義が多かった。

化学コース

- ・ 1つの分野に偏りすぎている、カリキュラム的にも、生徒に自由度が増しているが、履修する科目に偏りすぎる。

生物科学コース

- ・ 生物系をもっと増やして欲しかった。

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 専門性の定着が確実にできていない。生徒の責任もあるが、大学としても、カリキュラム、教授の指導方針を改善する必要がある。
- ・ 履修可能な科目が学期ごとでは限られてしまう場合もあるので、もう少し履修可能な科目が増えるといいと思う。
- ・ 実験や巡検、専門的に詳しく教えてくれる授業。

応用化学コース (物質変換科学)

- ・ 卒業研究をする学生にとって、「その他の科目」を卒業単位にまわせる数が多いというのは、為にならないような気がします。専門の同じような内容の授業でも複数開講して知識の定着をはかった方がよいと思います。
- ・ 論文の書き方
- ・ 危機分析の授業。現行の授業では偏りが大きい。

災害科学(防災科学)コース

- ・ 出席をとらない授業を減らせばよい。頑張っている学生が報われるように。

【アドバイザー教員制度】

25. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 余り適切でなかった D. 適切でなかった

(%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	74	20	0	6
物理科学(物質基礎科学)コース	56	38	0	6
化学コース	67	22	0	11
生物科学コース	70	22	7	0
地球科学(地球史環境科学)コース	36	64	0	0
情報科学コース	50	50	0	0

応用化学(物質変換科学)コース	38	50	6	0
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	55	27	18	0
災害科学(防災科学)コース	46	38	13	4

26. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

数学(数理科学)コース

- ・ より自由な学習方法で学べる環境が欲しいです。
- ・ 最高でした。
- ・ 特になし。
- ・ もっと厳しくした方がよいのでは？
- ・ 私の年の数学コースは人が多すぎたので、各コース(特に主選考)に定員を設けた方が良いと思う。
- ・ 理学部数学科として就活をするにあたって、数学科の教授の就活に対する熱意(教育)が低いのではないかと思います。教育面では丁寧な指導でわかりやすく、質問しやすい環境であったと思います。

物理科学(物質基礎化学)コース

- ・ 特になし。私は高知大学に来て、概ね満足しています。
- ・ 理学部は、選択必修や他学部他学科の科目でも自分の科としての単位になったり(例えば、基礎なら防災コースの専門なら自分の科の専門単位として ok という事だったり)することがあり、複雑である分、その詳しい説明、もしくは、困ったら学務課にちゃんと来ることを明確に言っておいた方が良いのでは？と思います。

化学コース

- ・ 融通が利かない。
- ・ 特になし。

生物科学コース

- ・ 生物科学コースのある卒論生が担当する教授の都合で、卒論はできあがっていたのに、卒業することができなくなったと聞きました、そのあたりの対応をもっと学生に親身に利いてあげるべきだと思います。公にすれば、大きな事になる問題だと思いますので。
- ・ 文系と理系の卒論の取り組みに差がありすぎる。
- ・ 専門科目の選択肢がたくさんあり、興味のある授業を受ける事ができるのは良いと思いました。
- ・ 高知大学に来て、本当によかったと思っています、特に、生物コースの先生方は優しく、面白くて、どの先生も大好きです!!!よく声をかけてくださって、嬉しかったです!!!授業も興味深いものばかりで、毎回楽しめました!
- ・ 野外に出る授業がもう少しあれば嬉しいです。また、3年生から履修するものばかりなのですが、野外実習の授業は、2年生から履修できるといいです!時間に余裕があるときに、しっかり経験しておきたいです。
- ・ 生物コースの授業はすごく楽しかったです!!もっと実習や野外活動をしたかったです。
- ・ ○○の教授(○○先生)をどうかしてください。あれは大学で受けた授業のなかで一番無意味なものでした、もっと、実践的なことを教えてくれる先生にしてあげてください。生物の先生は好きです。
- ・ 15回ある授業の中で1回でも野外での活動があれば、もっと楽しく取り組めると思う、実際にそのような授業は今でも記憶に残っている。
- ・ 一度休んで単位と認められないものがあつた。これは無くしてほしい。
- ・ 深夜まで勉強できる施設がほしかったです。

- ・ 特になし。
- ・ ありがとうございました。

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 理学部の卒業研究を3回生の冬(1月)から始めた方がいいと思う。
- ・ 地学は、地域性との関係が深い。高知大に来て初めて地学を学び、高知や四国の風土を生かした教育が成されていたことが良かった。4年間、高知で学べて、本当によかったと思います。
- ・ 同学部の授業でも卒業に関して、カウントされない授業などがあるので、一度選択したコースから他コースへの転コースを行いにくいと思われるので、興味、又、学習のためにも、もう少し幅広く、卒業単位に含まれる授業を増やすことができれば良いと思います。
- ・ 専門分野以外は難易度が低く、あまり力にならなかったです。専門分野の科目をもっと増やしてもよいと考えます。
- ・ 特になし。ただ、地元≠地域への貢献が少なすぎる。

情報科学コース

- ・ 1年次から専門科目を受講したかった。
- ・ 授業の科目が少ないです。
- ・ 項目 19 について、実験や野外調査等を増やしても、それがただの講義の拡張であっては意味がない。重要なのは、知性の枠組みが象牙の塔より少しはみ出し、興味を喚起することである。学問の範囲内で完結した物のみでは学生も真面目さ以上の学問的興味を持つのは難しい。もちろん、意欲の管理や学習した事の応用、関連づけは学生の仕事であるという意見も正当なものではあるが、大半の若者が大学で学ぶ現状では高望みであろう。むしろ、教員の知識意欲を学生に降ろすことが大学での学び、全体をよくする有効な戦略である。
その為に必要なものは、教員が自分の好きなことを好きのように語ることでできる環境である。その様に行われた授業は、たとえ、講義の形をとっていても、学問の外側にある人間の一般的生活感覚を揺さぶる物になることを経験として知っている。資格に関係する授業以外は、もっと自由に行われるものであることを願う。というわけで、シラバスの制約を緩くして欲しいと思う。
(面白くない授業への出席率の低い不真面目な学生の意見)

応用化学コース (物質変換科学)

- ・ 理学、化学系の学生のために開講されている授業の題目は適切であったが、扱う教科書を教授方たちで統一してほしいと思います。学生は、同じような内容の教科書を複数買わなければなりません。いろいろな種類の教科書を断片的に学習するより、一冊の教科書をきっちり仕上げる方が知識の定着がはかれると思います。
- ・ なし。
- ・ 4年間ありがとうございました。
- ・ 応用化学コースは物理化学系の授業がなさすぎ。院試がしんどかった。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ オフィスアワー等に先生方の所へもっと積極的に行ければよかったと思いました。

災害科学(防災科学)コース

- ・ 女が怖い
- ・ 授業の難易度にむらがある。
- ・ 学生が勉強するように。
- ・ 遊び 100%の学生が多すぎる。
- ・ 研究室間での差が激しいので、卒業研究はもっと厳しい基準を設けて欲しい。

- ・ 卒論の進め方が各研究室で違いがあるのは分かるが、できるだけ統一して欲しい。
- ・ 同じ卒業がかかっているにもかかわらず、対応の差がありすぎる研究室がある。